

I 北翔大学短期大学部 の概要

1 こども学科

I

北翔大学短期大学部の概要

北翔大学短期大学部は、昭和38（1963）年に北海道女子短期大学被服科をもって開学しました。その後、服飾美術学科、工芸美術学科、保健体育学科、初等教育学科、経営情報学科を増設し、62年にわたり建学の精神と教育理念に基づき、豊かな自然と文化環境の中で生活に関わる総合的教育を展開してきました。

平成15（2003）年度には服飾美術学科、保健体育学科、経営情報学科の3学科を改組転換し、地域総合科学科として人間総合学科を設置しました。平成17（2005）年には初等教育学科を小学校・幼稚園教諭免許取得に加え、保育士養成課程を置くこども学科に名称変更しました。平成24（2012）年度には、幅広い分野にわたる教科目から自らのライフステージを構築していくという教育の考え方から人間総合学科をライフデザイン学科に名称変更しました。

＜短期大学部の3つのポリシー＞

○ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

短期大学部の教育理念が掲げる行動力・社会力・総合力を身に付け、本学の卒業生としてふさわしい人材の育成を目指し、達成度を評価して学位を授与します。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

人間基礎力と実践力が身に付くようにカリキュラムを編成し、実習や行事等を準備しています。免許・資格取得に必要な科目を用意し、学修形態は基礎と応用、理論と演習のバランスのとれた教育課程を編成しています。

○アドミッション・ポリシー（入学受入方針）

短期大学で学ぶ明確な目的と課題をもち、それを達成しようとする意欲のある人材を受け入れます。

＜短期大学部の沿革＞

昭和38（1963）年 北海道女子短期大学（被服科）開学

昭和40（1965）年 被服科を服飾美術科に科名変更

昭和41（1966）年 工芸美術科、体育科開設

昭和44（1969）年 初等教育学科開設

昭和45（1970）年 体育科を保健体育科に科名変更

昭和62（1987）年 経営情報学科開設

平成9（1997）年 北海道女子大学開学

北海道女子短期大学を北海道女子短期大学部に、服飾美術科を服飾美術学科に、工芸美術科を工芸美術学科に、保健体育科を保健体育学科に名称変更

平成12（2000）年	北海道女子短期大学部を北海道浅井学園大学短期大学部に名称変更（男女共学）
平成13（2001）年	工芸美術学科廃止
平成15（2003）年	人間総合学科開設
平成17（2005）年	北海道浅井学園大学短期大学部を浅井学園大学短期大学部に名称変更 こども学科開設
平成18（2006）年	服飾美術学科、経営情報学科廃止
平成19（2007）年	保健体育学科、初等教育学科廃止 浅井学園大学短期大学部を北翔大学短期大学部に名称変更
平成24（2012）年	人間総合学科をライフデザイン学科に名称変更

北翔大学・北翔大学短期大学部 アセスメント・ポリシー

アセスメント・ポリシーとは、学生の学修成果の評価（アセスメント）について、その目的、達成すべき質的水準及び具体的実施方法などについて定めた方針です。

本学では、各学部で定める学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）の3つのポリシーに基づき、機関レベル、教育課程レベル（学部・学科）、科目レベルにおいて、学修成果を測定・評価します。

また、これらの結果に基づき、教育の質の点検・検証を行い、教育の継続的な改善を行います。

	入学前後 (AP)	在学中 (CP)	卒業時・卒業後 (DP)
機関レベル (大学)	入学試験 調査書 入学前学習支援プログラム	GPA 休学率・退学率 単位取得状況	学位授与率 就職率・進学率 免許・資格取得率 卒業生調査
教育課程レベル (学部・学科)	入学試験 調査書 入学前学習支援プログラム アセスメントテスト	GPA 休学率・退学率 単位取得状況 アセスメントテスト 履修カルテ（教職課程履修者対象）	学位授与率 就職率・進学率 免許・資格取得率 卒業生調査
科目レベル		成績評価 授業改善アンケート 履修カルテ（教職課程履修者対象）	

1. こども学科

こども学科の前身は初等教育学科であり、昭和44（1969）年3月に文部大臣より設置が認可されました。同年4月には第1期生32名が入学し、幼稚園・小学校の教員養成の学科として出発しました。

本学が初等教育学科として設立の準備を始めた昭和40年代初めころは、小学校教員の養成は北海道教育大学のみであり、高等学校女子生徒の小学校教員志望が多いにもかかわらず、その受け入れには限界がありました。そのため、教員を目指す女子生徒は、進学希望を実現するのが困難な状況でした。

このような社会的背景から、当時の初等教育学科は、教員を目指す女子生徒の門戸を開く学科として本道の大きな期待を担い、私学では本道で唯一の幼稚園及び小学校教員の同時養成を目指して発足しました。さらに、平成14（2002）年度からは、保育士養成施設として厚生労働省より認可され、保育士及び幼稚園・小学校教員の養成機関として今日に至っています。これまで多くの教員や保育者を輩出し、北海道の教育と福祉の充実・発展に寄与しています。

平成17（2005）年度からは「こども学科」に名称を変更しました。平成26（2014）年度からは保育者・教育者としての感性や人間性を豊かにする学びや実践的・体験的な学びを重視したコース制（保育、音楽、教育）を導入し、令和2（2020）年度からは取得を目指す資格・免許毎の2コース制（保育、教育）へと改編しました。

本学科では、保育士資格、幼稚園教諭2種免許状、小学校教諭2種免許状が取得できる教育課程を編成し、乳幼児や児童等に関する幅広い進路選択を可能にしています。これからの社会が求める保育や教育、子育て支援、そしてこどもに関する諸課題に適切に対処できる保育者・教育者を目指して、実践力を身に付けることを期待しています。

<こども学科の教育目的>

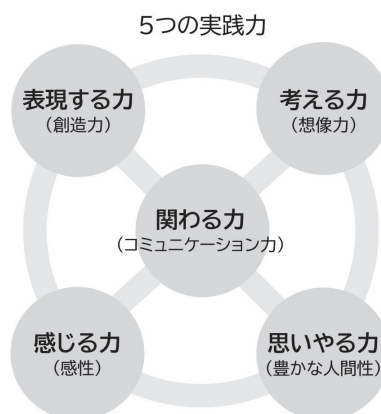
一般教養に関する広い知識を学ぶとともに、こどもの理解、こどもを取り巻く環境や社会的課題及び子育て支援に関する専門的学芸・技術を学び、教育・保育等に関わる優れた実践力を有する人材の育成を目的とする。

<こども学科の教育目標>

こどもの保育や教育及びこどもに関する諸課題に適切に対処できる技術や実践力を身に付けた人間性豊かな人材の育成

<こども学科の学習成果>

こどもの保育や教育及びこどもに関する諸課題に適切に対処できる技術や実践力を身に付けた人間性豊かな保育者・教育者として地域社会で活躍できるように、保育と教育に関する専門的知識と技術を習得する。また、演習や行事等を通して感性を豊かにし、保育・教育に関わる5つの実践力「表現する力（創造力）」「考える力（想像力）」「感じる力（感性）」「思いやる力（豊かな人間性）」「関わる力（コミュニケーション力）」を身に付ける。



＜こども学科の3つのポリシー＞

○ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

本学科では、以下に示す資質・能力等を修得した者に学位を授与します。

【知識・理解】

- (1) 感性豊かな、魅力ある人間性を持ち、社会人としての幅広い教養を身に付けている。
- (2) 保育・教育の分野及び保育、教育いずれかのコースでの専門的な学修を通して、保育者・教育者として社会に参加していくための実践的な知恵を身に付けている。

【思考・判断】

- (3) 自らの生涯設計において課題を設定し、その課題を解決するために、専門的な分野での学修を生かし、社会に役立てようと考察することができる。

【関心・意欲・態度】

- (4) 教育現場及び地域社会において、積極的に自身の学修成果を還元することができる。
- (5) 他者を尊重し、共生社会の実現に寄与することができる。

【技能・表現】

- (6) 保育者・教育者をめざす専門分野での学修を通し、高い職業的技能を身に付けている。
- (7) 自身の考えや立場を他者に伝え、他者との調整ができるコミュニケーション能力を身に付けている。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成します。

【教育内容】

- (1) 教養科目では、短大での学修への導入科目として「基礎教育セミナーⅠ」、「基礎教育セミナーⅡ」を配置する他、英語、情報機器操作の基礎を修得する科目を配置している。
- (2) コース共通科目では、保育士関連科目、保育士・幼稚園教諭関連科目、幼稚園・小学校教諭関連科目等を配置し、保育士資格、教員免許状等取得に必要な知識や実践力を段階的に学ぶことができるよう教育課程を編成し、保育者・教育者の土台作りを行っている。
- (3) コース共通科目での学びを通して、「社会福祉主事任用資格」「准学校心理士」「認定絵本士」の取得を位置付けている。
- (4) コース専門科目では、各コースの専門性を伸ばすべく、より高度で専門的な科目を配置し、学びの深化を図っている。
- (5) コース専門科目での学びを通して、保育コースでは「幼児体育指導者検定2級」、「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格2級・1級」いずれかの取得を位置付けており、教育コースでは「こども環境管理士2級」「学校図書館司書教諭」の取得を推奨している。
- (6) このように、学科横断的なコース共通科目そして専門性を重視したコース専門科目へと2年間で段階的に学修できる体系としている。

【教育方法】

- (1) 0歳から18歳までの発達段階に応じたこども理解や指導の方法、ならびにその年齢幅においても普遍的である教育に対する情熱やこどもに対する接し方などを、一貫して学べるようにしてい

る。

- (2) 自主的で対話的な深い学びを重視し、知識やスキルなどの他、コミュニケーション力を高める学修を行っている。
- (3) 保育所、児童養護施設、幼稚園、小学校等での実習を設定し、学修内容を実践する機会を用意している。それらの実習では、こどもに関わり、先生方と協力して経験を深め、教育に対する意欲をさらに高めることを重視している。
- (4) 担任制度により、入学時、学期末、年度末等の節目に面談を行い、学修状況確認と卒業後の進路について指導を行っている。

【教育評価】

- (1) 各授業科目において、ディプロマ・ポリシーで示した能力や資質が育成されているかどうかを見極める振り返りを行う。また、実習での活動の様子や積極性なども含めて評価する。
- (2) 授業後に、学びの振り返りを行うなど、習熟度を学生自ら確認できるようにする。
- (3) コース共通科目、コース専門科目、実習での活動の様子、免許・資格取得状況等から、2年間（長期履修生は3年間、4年間）の学びの成果を総合的に評価する。

○アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

本学科では、以下に示す資質・能力等を身に付けた者を受け入れます。

- (1) 高等学校の教育課程を修了し、高等学校卒業に相当する学力を身に付けている。
- (2) 論理的・社会的なものの見方・考え方ができる。
- (3) 保育者・教育者を目指す上で、保育、教育コースの専門的な分野に興味や関心を持っている。
- (4) 修得した知識や経験を保育・教育現場や社会で役立てたいという目的意識や意欲がある。
- (5) 自分の考えを論理的に考察し表現するなど、コミュニケーション能力を身に付けている。
- (6) 創造したり表現したりすることの技能が備わっている。

北翔大学短期大学部こども学科 学習成果、ディプロマ・ポリシーとの関連を示したカリキュラムマップ 令和7（2025）年度入学生

【学習成果】		5つの実践力とディプロマ・ポリシーの関連				
こどもの保育や教育及びこどもに関する諸課題に適切に対処できる技術や実践力を身に付けた人間性豊かな保育者・教育者として地域社会で活躍できるように、保育と教育に関する専門的知識と技術を習得する。また、演習や行事等を通して感性を豊かにし、保育・教育に関わる5つの実践力「表現する力（創造力）」「考える力（想像力）」「感じる力（感性）」「思いやる力（豊かな人間性）」「関わる力（コミュニケーション力）」を身に付ける。		表現する力 （創造力）	考える力 （想像力）	感じる力 （感性）	思いやる力 （豊かな人間性）	関わる力 （コミュニケーション力）
【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）】						
知識・理解	(1) 感性豊かな、魅力ある人間性を持ち、社会人としての幅広い教養を身に付けている。			○	○	
	(2) 保育・教育の分野及び保育、教育いずれかのコースでの専門的な学修を通して、保育者・教育者として社会に参加していくための実践的な知恵を身に付けている。	○	○			○
思考・判断	(3) 自らの生涯設計において課題を設定し、その課題を解決するために、専門的な分野での学修を生かし、社会に役立てようと考察することができる。		○			
	(4) 教育現場及び地域社会において、積極的に自身の学修成果を還元することができる。	○	○			
関心・意欲・態度	(5) 他者を尊重し、共生社会の実現に寄与することができる。				○	○
	(6) 保育者・教育者を目指す専門分野での学修を通じ、高い職業的スキルを身に付けている。		○			
	(7) 自身の考えや立場を他者に伝え、他者との調整ができるコミュニケーション能力を身に付けている。	○			○	○

	科目名	ディプロマ・ポリシー						
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
1	基礎教育セミナーⅠ	○			○	○		
2	基礎教育セミナーⅡ	○			○	○		○
3	英語コミュニケーションⅠ	○					○	○
4	情報機器操作Ⅰ	○					○	
5	健康体育（実技を含む）	○					○	
6	日本国憲法	○		○	○			
7	応用教育セミナーⅠ	○	○		○	○		○
8	応用教育セミナーⅡ	○	○	○	○	○	○	○
9	保育内容演習Ⅰ		○		○	○	○	○
10	保育内容演習Ⅱ		○		○	○	○	○
11	こどもと絵本Ⅰ		○		○		○	○
12	こどもと絵本Ⅱ		○		○		○	○
13	こども家庭福祉		○	○	○			
14	社会福祉		○	○	○			
15	こども家庭支援論		○	○	○			
16	社会的養護Ⅰ		○	○	○			
17	保育者論		○	○	○			
18	保育の心理学		○	○	○			
19	こども家庭支援の心理学		○	○	○			
20	こどもの保健		○	○	○			
21	こどもの食と栄養		○	○	○		○	
22	保育の計画と評価		○	○				
23	保育内容の理解と方法Ⅰ		○				○	
24	保育内容の理解と方法Ⅱ		○				○	
25	保育内容の理解と方法Ⅲ		○				○	
26	保育内容の理解と方法Ⅳ		○				○	
27	乳児保育Ⅰ		○	○				
28	乳児保育Ⅱ		○				○	
29	こどもの健康と安全		○				○	
30	障害児保育		○				○	
31	社会的養護Ⅱ		○				○	
32	子育て支援		○				○	○
33	保育所実習Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○
34	施設実習Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○
35	保育所実習指導Ⅰ		○	○			○	
36	施設実習指導ⅠA		○	○			○	
37	施設実習指導ⅠB		○	○			○	
38	施設実習指導ⅠC		○	○			○	
39	保育実践演習		○	○	○		○	
40	こども学研究		○		○			
41	こどもの防犯と防災	○	○	○				
42	こどもと自然		○				○	
43	こどもと野外活動		○				○	
44	保育所実習Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○
45	施設実習Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○
46	保育所実習指導ⅡA		○	○			○	
47	保育所実習指導ⅡB		○	○			○	
48	施設実習指導Ⅱ		○	○			○	
49	保育原理		○	○	○			
50	こどもの理解と援助		○				○	
51	保育内容総論		○	○	○		○	
52	こどもと健康		○	○			○	
53	こどもと人間関係		○	○			○	
54	こどもと環境		○	○			○	
55	こどもと言葉		○	○			○	
56	こどもと表現		○	○			○	
57	こどもと器楽Ⅰ		○				○	

	科目名	ディプロマ・ポリシー						
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
58	こどもと器楽Ⅱ		○				○	
59	こどもと器楽Ⅲ		○				○	
60	保育内容健康の指導法		○		○		○	
61	保育内容人間関係の指導法		○		○		○	
62	保育内容環境の指導法		○		○		○	
63	保育内容言葉の指導法		○		○		○	
64	保育内容表現の指導法		○		○		○	
65	教職概論		○	○	○			
66	教育心理学		○	○	○			
67	特別支援教育基礎		○	○	○			
68	教育課程論		○	○				
69	教育の方法と技術（ICT活用を含む）		○				○	
70	教育相談とカウンセリング		○		○			
71	教育実習講義Ⅰ		○	○			○	
72	教育実習講義Ⅱ		○	○			○	
73	教育実習	○	○	○	○	○	○	○
74	教職実践演習（幼・小）		○	○	○	○	○	
75	教育原理		○	○	○			
76	幼児体育指導法		○		○		○	
77	こどものリズム表現Ⅰ		○		○		○	
78	こどものリズム表現Ⅱ		○		○		○	
79	保育内容実践研究（音楽）		○		○		○	
80	保育内容実践研究（造形）		○		○		○	
81	保育内容実践研究（表現）		○		○		○	
82	保育内容実践研究（運動）		○		○		○	
83	国語（書写を含む）		○	○			○	
84	社会		○	○			○	
85	算数		○	○			○	
86	理科		○	○			○	
87	生活		○	○			○	
88	音楽		○	○			○	
89	図画工作		○	○			○	
90	家庭		○	○			○	
91	体育		○	○			○	
92	小学校英語		○	○			○	
93	国語科指導法		○		○		○	
94	社会科指導法		○		○		○	
95	算数科指導法		○		○		○	
96	理科指導法		○		○		○	
97	生活科指導法		○		○		○	
98	音楽科指導法		○		○		○	
99	図画工作科指導法		○		○		○	
100	家庭科指導法		○		○		○	
101	体育科指導法		○		○		○	
102	英語科指導法		○		○		○	
103	道徳指導法		○		○		○	
104	総合的な学習の時間の指導法		○		○		○	
105	特別活動指導法		○		○		○	
106	生徒指導（進路指導を含む）		○	○			○	
107	学校経営と学校図書館		○	○	○		○	
108	学校図書館メディアの構成		○	○	○		○	
109	学習指導と学校図書館		○	○	○		○	
110	読書と豊かな人間性		○	○	○		○	
111	情報メディアの活用		○	○	○		○	
112	小学校教育教材研究		○		○		○	
113	小学校教育授業研究		○		○		○	
114	日本語	○						○
115	現代日本の文化	○			○			

【学習成果】

こどもの保育や教育及びこどもに関する諸課題に適切に対処できる技術や実践力を身に付けた人間性豊かな保育者・教育者として地域社会で活躍できるように、
保育と教育に関する専門的知識と技術を習得する。また、演習や行事等を通して感性を豊かにし、保育・教育に関わる5つの実践力「表現する力(創造力)」
「考える力(想像力)」「感じる力(感性)」「思いやる力(豊かな人間性)」「関わる力(コミュニケーション力)」を身に付ける。

【資格・免許】

- ・保育士資格 ・幼稚園教諭2種免許状 ・小学校教諭2種免許状(教育コース)
- ・社会福祉士専任用資格 ・幼児体育指導者校定2級 ・幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格1・2級(保育コース) ・こども環境管理士2級 ・准学校心理士
- ・認定給本士 ・学校図書館司書教諭(教育コース)

● 保育士関連科目 ◆ 幼稚園教諭関連科目 ■ 小学校教諭関連科目

	後学期	応用教育セミナーⅡ	こども家庭支援論 こども学研究	こどもの防犯と防災	子育て支援 こどもと野外活動	保育実践演習 保育所実習指導Ⅱ 施設実習指導Ⅰ 施設実習Ⅱ 施設実習指導Ⅱ	こどものリズム表現Ⅱ 小学校教育授業研究 学校経営と学校図書館 学校図書館メディアの構成 学習指導と学校図書館 読書と豊かな人間性 情報メディアの活用
2年	前学期	応用教育セミナーⅠ		こども家庭支援の心理学 こどもの理解と援助 生徒指導(進路指導を含む)	保育の計画と評価 乳児保育Ⅱ こどもの健康と安全 障害児保育 こどもと健康 こどもと人間関係 保育内容健康の指導法 保育内容人間関係の指導法 こどもと器楽Ⅲ 教育課程論	小学校英語 国語科指導法 社会科指導法 算数科指導法 理科指導法 生活科指導法 音楽科指導法 図画工作科指導法 家庭科指導法 体育科指導法 英語科指導法	保育内容実践研究(音楽) 保育内容実践研究(造形) 保育内容実践研究(表現) 保育内容実践研究(運動)
	後学期	基礎教育セミナーⅡ 健康体育(実技を含む) 現代日本の文化(外国人留学生科目)	社会的養護Ⅰ	こどもの保健 こどもの食と栄養 教育心理学 特別支援教育基礎	乳児保育Ⅰ 社会的養護Ⅱ 保育内容総論 こどもと環境 こどもと言葉 こどもと表現 保育内容環境の指導法 保育内容言葉の指導法 保育内容表現の指導法 こどもと器楽Ⅱ	国語(書写を含む) 算数 生活 体育 道徳指導法 総合的な学習の時間の指導法 特別活動指導法	保育内容演習Ⅱ 幼児体育指導法 こどものリズム表現Ⅰ 小学校教育教材研究
1年	前学期	基礎教育セミナーⅠ 英語コミュニケーションⅠ 情報機器操作Ⅰ 日本国憲法 日本語(外国人留学生科目)	こども家庭福祉 社会福祉 保育者論 保育原理 教職概論 教育原理	保育の心理学 教育相談とカウンセリング	保育内容の理解と方法Ⅰ 保育内容の理解と方法Ⅱ 保育内容の理解と方法Ⅲ 保育内容の理解と方法Ⅳ こどもと自然 こどもと器楽Ⅰ 教育の方法と技術(ICT活用を含む)	社会 理科 音楽 図画工作 家庭	保育内容演習Ⅰ こどもと絵本Ⅰ こどもと絵本Ⅱ
		教養科目	保育・教育の本質・目的	保育・教育の対象の理解	保育・教育の内容・方法	領域・教科・指導法	実習・総合演習
							コース関連科目

＜授業科目の履修及び単位の修得＞

①単位の修得

卒業要件単位及び免許状及び資格取得に係る所定の単位修得に当たっては、本短期大学部学則及び履修規程並びにこども学科の履修指導に従い、所要の授業科目を履修しなければなりません。

②履修の方法及び留意事項

- ・教養科目・学科専門科目の履修においては、資格及び免許状の取得に必修な科目とその他の選択科目があり、必修の共通科目は必ず履修しなければなりません。
- ・履修する授業科目及び単位数は、取得希望の資格及び免許状の種類に応じて、北翔大学短期大学部保育士養成課程履修規程（Ⅲ 学習 2.）及び北翔大学短期大学部教職課程履修規程（Ⅲ 学習 2.）の定めるところにより、必要な単位を修得しなければなりません。
- ・こども学科の卒業要件科目として、取得希望の資格及び免許状の種類に関係なく、必ず履修しなければならない科目（必修科目）があります（Ⅲ 学習 2. こども学科授業科目一覧表○印）。
- ・学科推奨科目は、保育・幼児教育・小学校教育における感性・技能のより一層の育成を目指し、基礎学習をふまえた発展・応用的科目として位置付けています。該当する科目は、講義要綱（シラバス）を参照してください。

＜取得可能な資格・免許＞

こども学科においては、次の資格・免許を取得することができます。

資格要件等については、Ⅲ 学習 2. を参照してください。

①国家資格・免許状

●保育士資格 ●幼稚園教諭 2 種免許状 ●小学校教諭 2 種免許状（教育コース）

※保育士資格は、卒業前に登録事務処理センターに申請し、その後 6 月初旬～中旬頃の証書授与となります。

②その他の資格・検定

●社会福祉主事任用資格 ●幼児体育指導者検定 2 級 ●幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格 2 級・1 級（保育コース） ●こども環境管理士 2 級 ●准学校心理士 ●認定絵本士 ●学校図書館司書教諭（教育コース）

＜保育実習、教育実習及び介護等体験＞

保育士資格や教育職員免許状（幼稚園教諭 2 種・小学校教諭 2 種）を取得するには、卒業年度に実施する保育実習や教育実習が必修となっています。

この実習は、日頃の学習成果を、現場で実践する最も重要な学習活動であり、実習の経験により、保育者や教員への希望を一層強くする学生がほとんどです。

保育・教育実習の事前研修として、1 年次または卒業前年度の長期休業期間中に、幼稚園等、小学校での観察実習、児童福祉施設等の見学を予定しています。

①保育実習

保育士資格を取得する場合は、保育所実習Ⅰ〔保育所等10日間〕及び施設実習Ⅰ〔児童福祉施設等10日間〕が必修であり、保育所実習Ⅱ〔保育所等10日間〕または施設実習Ⅱ〔児童福祉施設等10日間〕を選択必修とします。ただし、施設実習Ⅱは不開講になる場合があります。

- ・実習時期：保育所等での実習 8 月～9 月
保育所以外の児童福祉施設等での実習 9 月～12 月の期間内
(変更になる場合があります)
- ・実習場所：保育所実習 原則として道内出身者は出身地域内の保育所等
施設実習 北海道内の指定された保育所以外の児童福祉施設等
- ・実習要件：保育実習を履修するには、次の条件を満たしていること。
 - 1) 保育士養成課程の履修を計画的、かつ、意欲的に進めていること。
 - 2) 次の 4 科目を履修していること。
「保育原理」「保育所実習指導Ⅰ」「施設実習指導ⅠA」「保育内容総論」
 - 3) 学力が適格で、GPAが基準値以上であること。
 - 4) 日頃から受講態度が良く、挨拶・言葉づかい・服装など保育者、教育者として適切な言動ができていること。
 - 5) 保育士養成課程履修費を納入済みであること。

②教育実習及び介護等体験

教育職員免許状を取得する場合は、教育実習〔幼稚園等または小学校、3 週間（15日間）〕が必修です。

- ・実習時期：教育実習 5 月～6 月（変更になる場合があります）
- ・実習場所：教育実習 原則として北海道内の幼稚園等または小学校
- ・実習要件：教育実習を履修するには、次の条件を満たしていること。
 - 1) 教職課程の履修を計画的、かつ、意欲的に進めていること。
 - 2) 次の 5 科目を履修し、所定の単位を修得して、教職センター運営委員会にお

いて認められた者。

「教職概論」「教育原理」「教育相談とカウンセリング」「教育実習講義Ⅰ」
「日本国憲法」

3) 学力が適格で、GPAが基準値以上であること。

4) 日頃から受講態度が良く、挨拶・言葉づかい・服装など保育者、教育者として適切な言動ができていること。

5) 教職課程履修費を納入済みであること。

小学校教諭2種免許状取得の場合は、教育実習の他に介護等体験（特別支援学校2日間と社会福祉施設5日間、計7日間）も必修であり、施設長の実施証明書がなければ免許状申請ができないことになっています。なお、保育士資格取得のための実習において、介護等体験証明の交付を受けた場合は、介護等体験は必要ありません。介護等体験は原則卒業年度に実施します。

③保育実習、教育実習履修の例

():単位数、◎：必修、○：選択必修

区分	保育所実習Ⅰ(2)	施設実習Ⅰ(2)	保育所実習Ⅱ(2)	教育実習(4)
保育士資格	◎	◎	○	
幼稚園教諭2種				◎
小学校教諭2種				◎

<こども学科の主な行事> ※行事の内容や開催時期が変更となる場合があります。

① 1 学年

●芸術鑑賞会（関連授業：基礎教育セミナーⅠ）前学期

優れた美術作品等を鑑賞することにより、感性を磨き、将来の保育者・教育者として資質の向上を目的にしています。

●大学祭への参加「こどもの国」(関連授業：保育内容演習Ⅰ、基礎教育セミナーⅠ・Ⅱ) 後学期

学校行事としての大学祭において、学科の特色を生かした取り組みを実施します。地域のこどもを対象とする体験コーナー・遊具・遊び場づくり等を実施し、こどもたちとの積極的なかわりを通して学びを深めます。

●研修旅行（関連授業：基礎教育セミナーⅠ・Ⅱ）前学期

学友や教員とのコミュニケーションの場とするとともに、見学や体験活動等を通して、保育者・教育者としての力量を高め、社会人として生活する上での基本的なマナーを身に付けることを目的に日帰りで実施します。

●マナー講習会Ⅰ（関連授業：基礎教育セミナーⅡ）後学期

専門の講師による指導により、日頃の言葉づかいや話し方を見直すとともに、基本的な挨拶や立ち居振る舞いなど、社会人としてのマナーを身に付けることを目的にしています。

② 2 学年

●芸術鑑賞会（関連授業：応用教育セミナーⅠ）前学期

優れた舞台芸術やコンサート等を鑑賞することにより、感性を磨き、将来の保育者・教育者として資質の向上を目的にしています。

●マナー講習会Ⅱ（関連授業：応用教育セミナーⅡ）後学期

専門の講師による指導で、本実習や間近に迫る社会生活に必要なマナーと、社会人としての素養などを身に付けることを目的にしています。

●実習報告会（関連授業：教育実習講義Ⅱ、保育所実習指導ⅡB、施設実習指導ⅠC、応用教育セミナーⅠ・Ⅱ）前後学期

教育実習及び保育実習での学びの成果を発表します。実習中の活動報告に加え、手遊びなどの実技を交えた発表や交流を行います。